

# 中間報告書

## 人工海浜緑化計画

GREEN project

### 1. 実施内容

#### 1.1. 海浜調査

##### ① 調査内容

- ・植物の種類
- ・植物の根の深さ
- ・育成、生育環境
- ・土の採取
- ・海岸からの距離



##### ② 芸予諸島の調査

岩場付近に多くの植物が見られた。満潮時の海面と植物までの距離が1 m弱だと予測。植物が横へ広範囲広がっていた。水の pH は 7.2 付近。地面を約 2 cm 程度掘ると湿潤な土が見られる。砂の形状は、粒が大きく砂利状になっており石英などを多く含んでいた。

##### ③ 有明浜調査

ハマゴウの大群落やハマヒルガオ、コウボウムギ、ハマジシャなどの代表的な海浜植物が多く生育していた。波打ち際からの距離、落差共に大きく海浜植物と海の間には空間があった。砂の形状は粒形が小さく、貝類の破片などが多く含まれていた。



##### ④ ベイサイドビーチ調査

最終目的である移植において、現地の植生分布をある程度把握し、移植後の植物の成長を予測した。しかし、管理をする人がいないため、移植予定地は様々な種の草本であふれていたため、すぐに移植ができる状態ではなかった。また、大潮のとき波が移植予定地まで届いたのか、土壌が大量に削り取られていた。それにより、成長していたハマナデシコがいくつか流されており定期的な観察が必要である。

## 1.2. 海浜植物の育成開始

### ① 赤玉土のみ

発芽は早くないものの安定した成長状況が確認された。

### ② 赤玉土+野菜の土

ハマダイコン、ハマジシャの発芽が最も早く確認された。他の土壌と比べても明らかに成長が早く、苗を作ることに適している可能性がある。

### ③ 赤玉土+砂

赤玉土と同程度の成長量が見られた。赤玉土と混ぜることにより、保水性は上がるが砂自体に栄養が無いため成長に変化がない。

### ④ 赤玉土+肥料

最も発芽率が悪く、発芽したものでも成長が遅れている。

## 1.3. 温室育成

室内用と室外用の温室を用意した。

室内は発芽が早いですが日光が無いので、茎が長細く丈夫な苗が生育しなかった。室外は日光が十分だが、温室内と外気の温度差により結露し、湿度が高く成長に影響が出ている。現在は、室内で発芽させ室外で成長させている。



## 2. 今後の活動予定

### ・情報発信

海浜植物をより多くの人に知ってもらうためにHPを作成し、HITチャレンジの進行に合わせて更新していく。

### ・苗の生産・観察

緑化を行うための海浜植物の苗を可能な限り生産する。その苗を育成すると共に、観察を行いよりよい苗を生産する。

### ・緑化予定地での緑化

NPO法人瀬戸里海振興会と連絡を取り、緑化予定地であるベイサイドビーチ坂に、今回の活動で生産した苗を移植する。